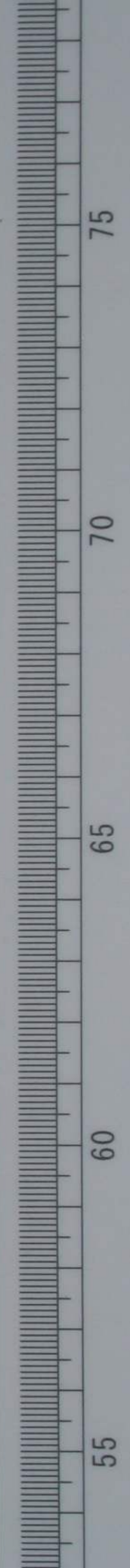


頭書
全

世界國盡

歐羅巴洲

三







歐羅巴洲の事
 歐羅巴の人別ハ二
 億六千二百萬人と
 の内十分の九ハ白
 人の種を南の方
 小ハ黑白相混ト
 人種もゆを又北
 の方魯西亞の領分
 一ハ蒙古人の種も
 残して顔色白から

世界
 國
 盡
 卷
 三

歐羅巴洲
 歐羅巴土地名亞西
 亞小連れ乃塔
 貝以乃塔乃東方
 小字良留山

ぬものゆき

歐羅巴人種



當時歐羅巴洲中の
國々大小四十九王
國もゆき公國もゆ
て帝國ハ唯魯西也

出テ空良留河末を
表海少流少人甲
紫菜山の麓も黒
海越えし北中海河
洲利加洲と對し

佛蘭西地利的三
箇國の土留古也
或ハ帝國といふ
ともゆきも他の
國々ハ風俗も違ハ
別りのおせを英吉
利ハ王國をとも
格別の強國おて其
政事ノ行届き國力
の盛なりハ歐羅巴

治部良苗多留の
波左邊下西ハ面河
多羅海洲以南北
一千里東面ハ四百
里西面ハ四百

第一 ともいふに

今の魯西皇帝
第二世のとき

今の佛蘭西皇帝
第三世のとき

今の英吉利皇帝
第二世のとき



十九の國の國の力も
弱し時勢も由り
た沈み魯西皇帝
士澳地利英と佛と
はを國に當り日の出



今の英吉利女王
當時歐羅巴の文明
開化世界第一として
相違もりたあとか
とども往古ハ矢張

の五國の國の廣袤
其校を以て五大洲の
東より西へと横に
少くも人民の
産を以て富國

渾沌無智追々開け
の進び及んで中
古ハ封建の世とて
専ら武と重んじ武
士の威光烈しく
て町人百姓の難波
せしむとも多し
一が二三百年以前
一を學問の道漸く
行と世人の生計も

兵天の一文的開化の
中心と名を多し
以て業人の教の
行而も徳を修
免知以并は文學

繁昌する小徒ハ世
の人皆智と貴でカ
と恐とど國の政事
も自然よとの進小
甚きて次第今日
の有様不至し
今ある小渾沌無
知の風俗よ文明
開化小至すや次
弟よその趣と頭

技藝業を業し
郡郡以差別あり
法方ヲ建ち學問所
幾多あり教知
彼の産業業のおう

たの繪圖と西洋の
地理書を寫して
示すのと左の如し
此繪を見て世の中
の大樂を知るべし



彼商賣の餘り
兵備整ひ武器足
るに世界之誇るた
平たし内海を舟
一市は勢も是る



の枝は花に花
あしん花に花
美しき本は花
をいなりて花
急を急に逢



○英吉利の本國ハ
さきで大國なり
らび凡日本國位の
そのかきども遠方
小飛地多く五大洲

東より北に行路共
し山も西洋の道
も東の花をりん
英吉利を佛菜西
國以北の海揚る程

中興大利亜のりて
まぐも英吉利の領
かめりぐれ處か
これを集まば英の
一里四方ありて八
百萬坪大抵世界の
廣さの六分一あり
其廣大魯西亞あり
あらば人の廣き領
か子住ふ人の數一

竹嶋の國在格
英東河再蘭英倫以
三石を人合衆王
國也威名輝く一落
五ノ民二平九百萬

億八千三百萬人他
國無比類か唯支
那の人別々及むぞ
論頌の外おも大都
會の數多しといふ
るがふらびうそん
るむ蘇格蘭の都小
るらんがふ阿本
蘭の都まどぶらん



等何とも繁昌
市中々々

極く勇生し水を
渡りふ蒸氣船
里の波し思ふ陸
地は走る蒸氣車
は人小翼の新式

百工技藝牧田畑
物遺る所あり中
鉄石炭蒸
氣若械の源を用
るる奴等を知る

英吉利ハ世界第一
商賣繁昌の國也
諸國の船の出入
て港の賑はさ
いふまでもなく國
中の往來も甚だ便
利あり近來蒸氣船
ハ珍らしいものも
ども日本人のハま
ど見ぬ蒸氣車とい

飛より疾は傳信
機瞬く暇は余り
告る急を飛脚
申す外はの新中を
互に聞て古傳ある

ふものゆきあもハ
馬も牛も用ひる唯
蒸氣の仕掛かて走
る車あり其疾さめ
と實お人の目と驚
かそ大抵一時ハ二
十里も走ると東
海道五十三驛ヤ
ハ一昼夜もて往返
と包ト又傳信機ト

の都會は中心を延
武須河畔ハ論棟
府廣は界は款
なは美玉一ハ大部
今東每云里南北を

いふものゆゑに
八百里も千里も針
金を引張てその両
端お名をさすとせ
いふもの仕裁と
設け瞬く間お敷千
里の遠方へ相圖
て談話の出来趣
向を瓦斯として其
炭と蒸焼おして其

二百里の間に
軒端の櫛の歯
並に一籙を立
比多の一人
十方往來群衆

氣を引き油燭の
代小用さすの
但此等の仕裁ハ
英吉利のミヤハ
西洋諸國皆同様
て人の便利と達
夜行をさ小提燈
持と荷物運ぶ
馬の背と用ひ急
用の交通をさす

成成一報
六美以尾斯の
燿中と晦日
人知と昼夜
たの紀馬車

草鞋とらひく道中
と駈つるのもよく
何事も智恵くらふ
の世の中やを

蒸氣車
傳信機



の海は浪も音静
港は船も美玉の船
から遠望は木林木
の葉をなぬり河
蒸氣河に架た鉄

英吉利の海軍ハ世
界第一を軍艦の
数千艘が遊一領分
の地ハ備ふハ勿論
始終外國へも出張
自國の人と守護一
て他の侮と防が故
ハ世界中交易の行
こす場所ハハ
英人の威光最も盛

橋は走る蒸氣車
矢の如く今朝見
友は夕暮ト多里隔
旅の急ぎ旅路
心はな悉く記す

○佛蘭西ハ歐羅巴
 中の都としていふべ
 き真中おて土地も
 開け一体花美
 ふう風俗を人の
 才氣鏡として學問
 と勉め發明多し巴
 理斯の大學校として
 世界お並りて學

ハす、乃日と名跡お
 人論頃、別
 南、堂、宇、宙、の、際、戸
 以渡、九里、解、わ、る
 乃、ま、り、乃、ま、り、は



問所おて大先生方
 の集り處なり

佛蘭西國、西、以、界
 何、西、班、牙、東、為、白、身
 義、瑞、西、東、西、二、百、六
 十、里、南、北、九、二、百
 余、里、南、以、方、北、中

虎留鹿の嶋ハ佛蘭
 西皇帝弟一世が
 ことんの誅生せし
 由來おて評判高し
 余保禮恩ハ之身
 介もやれ人なりし
 先七百年代の末
 電政ハ佛蘭西ハ
 大乱起りそのせつ
 用ひりもて陸軍の

海峽岩岫に隔るる
 今も其地の廣大
 魯西亞に次ぐ帝位
 の國人口云々七百
 其府巴里斯此人

隊長とやせし生來
 智勇兼備の英雄ハ
 年二十六才の時
 伊太里と攻取て翌
 年ハ地地利ハ勝ら
 向ハ所天下ハ敵ハ
 一十八百四年即ち
 我文化元年佛蘭西
 帝の位ハ即ち威名
 と歐羅巴洲中ハ東

別々唯臨頓と及る
 市中明家の義
 業ハ一ハ文也其様
 の好ム名ハ西洋諸
 王ノ類ナリ國の

かー魯西亞英吉利
の外ハ諸國とも大
抵皆佛蘭西に降伏
せしむるの勢あり
一が十八百十二年
五十萬の大兵と卒
ひる魯西亞を攻め
大雪のふり小難
して克ぶあきし
次第小威勢と落し

産物教多し中
里の絹天鵝絨
酒は保る心ち也人
酒類法は種類
三百種年小種也

遂かすのりろふ
の戦不勝負嶋小
流さるる



佛蘭西帝
第一世
今の佛蘭西帝ハ弟
一世がなきとんの

石教ハ幾百系此
教志し推しある
國の富玉富
人の多けき人保護
以兵亦多々軍艦

甥小當り弟三世也
 不もとんと以ふ此
 君も英雄の名譽以
 て近來ハ頻ハ海陸
 軍を盛ホ一て歐羅
 巴諸國をかゝると
 恐ろといふ
 ○西班牙ハ其むろ
 一強大なる國ホ
 世界中ハ領カも多

大小五ヶ所般陸の兵士を五
 十萬軍蓋我彼懸
 て進退の心
 中は西洋一ハ強兵
 と名聲一ハ得し

如そ一ハ近來ハ衰
 一ハ學術もホ繁
 昌也也廣き國中ホ
 蒸氣車の路も甚ど
 少一元來此國の人
 ハ骨格もろく勇氣
 事ホ勤心ホ唯
 氣位の高くして
 活計の道と勵まば

理なり
 佛茶東西ハ西と南
 西班牙國ハ都
 麻土律ハ名
 高事ハ法なる人

世史國盡卷之三

世界万国
万国万国
万国万国
万国万国

頼母一からぬ風俗



○葡萄牙の昔日ハ

性質懶し勤心
 昔はきよは福の道
 小おほくは玉の産物
 多しは文明の井化
 乃多様は美と佛

盛なり國おて専ら
 航海と勤りて千四
 百九十七年即ち我
 明應六年歐羅巴よ
 喜望峰と廻り印
 度へ渡り道筋と見
 出せしも葡萄牙の
 人にてふでがま
 いか航海者なり日
 本へ外國人の來を

小較下る遠敷
 等以下有人西
 廻北は葡萄牙田
 楠の河の河口に并
 港里流急急

世界万国 十五

七十七
同
三

一ハ天文十一年と
始と五あともかん
てはびんよやいふ
葡萄酒の人やを



國王居住の都なり
之の風俗盛衰を
鄰の風俗異なり
文學枝藝の流り
今ハ昔と異なり

○地中海の口ハ治
部良留多留の瀬戸
一方をどもあの
瀬戸ハ潮の流込
むのこめて外に出
つあとかし不思議
なり場所あり英人
のあハ小臺場を築
て狭き一方口と守
るハ囊の口を先

目次
里須益以港を
立戻南東より京
出せは潮の流矢れ如

古今圖書集成

世界地圖卷三

其紐を持つが如し



地中海の如く

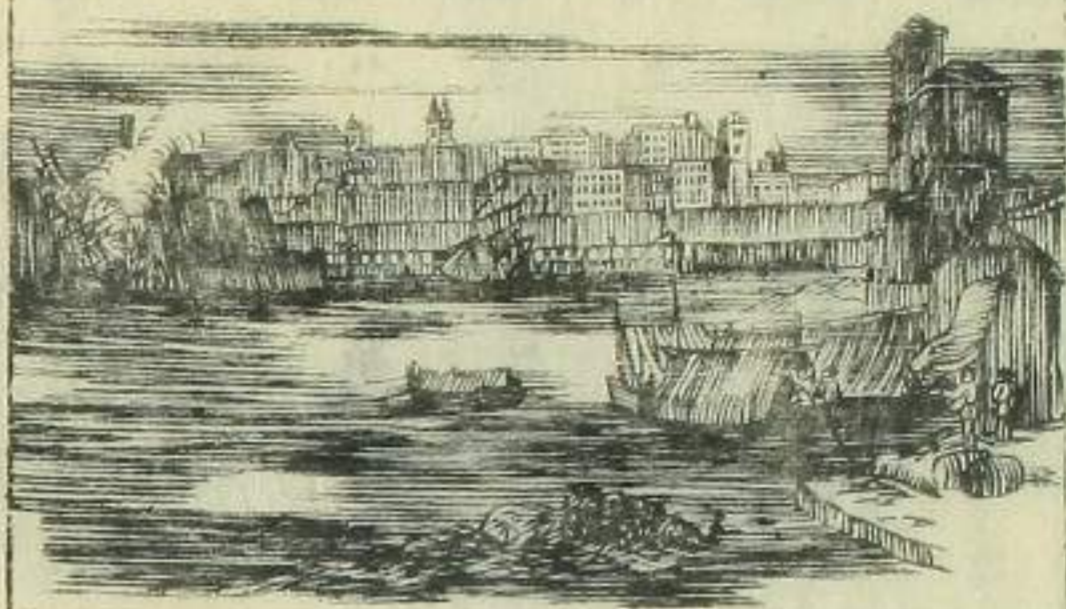
治部良苗多留の
 瀬戸の口南北僅六
 七里有りの河氷利
 加洲北の對も歐羅
 巴之大海の玉堀は

太といふ嶋のて
 みも英領あり其
 臺場の洪大ハお
 らうとハ小方ト
 英人ハ此二箇所
 要害と占て地中
 小威と振つて本
 喉押して背を打
 とハみのくやり

部良苗多留の要害
 地中海の喉頭地
 天陰小陰一築立
 今。砲其至は古不
 動の大盤石喉押

世界地圖卷三

九太の嶋の景



○獅子里も伊太里の領分なり大山の江上奈山といふ

世良國書卷三

背臥打つ美吉利
人の権勢を地中
海一車轉たし恐
水鹿うぬもの何る
一灘下を廻るは



獅子里嶋江上奈山の景

高さ一萬尺余海に望し見れば一歐羅巴の名山を

馬里苗嶋東方の
猿姑に屋獅子里越
伊太里國細く長
くを靴し玉の杖
を擬し獅子里嶋ハ

世良國書卷三

十八

伊太里の南の方
 山阪多く北の方
 平地多し氣候
 南ハ温より北
 北ハ寒し國中の
 人別二十萬人余都
 とふろきんとい
 名高き學問所
 元來伊太里ハ舊
 文國にて古代の

鞆先以指の度
 有る人國の
 三百里
 河百邊山南ハ海
 突出し一町餘程

書画類多しといふ

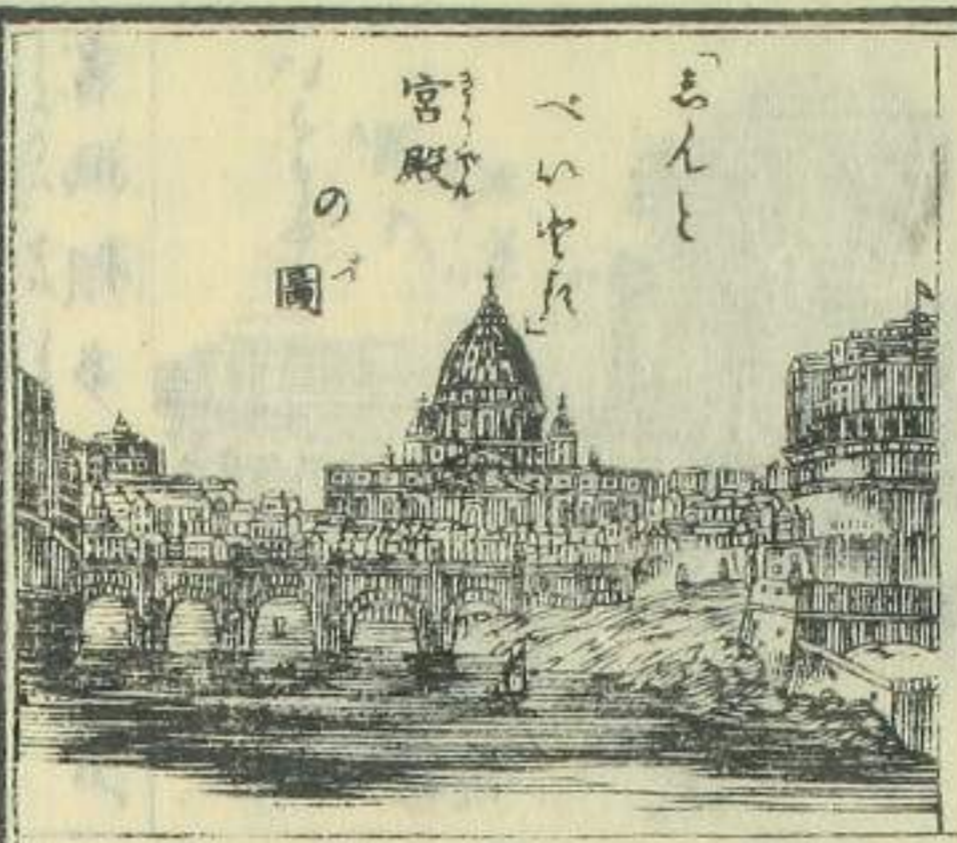


法王の領か
 ハ大お衰へ

此地味犯え
 天氣快く
 山の色
 水の聲
 越ハ夫の

世見國盡卷三
三

も名所旧跡多く志
んとべいとさるや
いへる宮殿八目と
驚くも不足きを



京北の法寺いやは
く山田は殖も桑の苗民
の梅を前か人西
海岸ハ羅馬飲法
所字ハ空化と

○希臘ハ久しく土
留古の支配とナリ
小国ハゴして恢復
と謀る他國の人
同情相憐みてあ
と助け千八百二十
一年の頃ハ数年
の苦戦ハて遂ニ
此獨立國ニ復シた

右所舊跡
伊右里國以南
東ハ渡リ希臘
由来也

世見國盡卷三

二十

廣く由來久しき
 帝位の國を古き
 翻譯書は獨逸帝
 記したるハ即ち埃
 地利帝のふとり
 昔日ハ國民の教行
 届き中ハ海次第
 衰へんとする處
 近來ハ又類を
 學の世詠りて學

友朽まゝに海を
 沈む意風俗知後
 其月しく威徳く
 百々あり生民我
 慄くても事あり



問所をども多し
 土苗古の北の埃地
 利魯佛の立ふ一帝
 國東に灌く駘八部
 の河の畔乃今海を
 ハ皇帝臨御の大都

世界
 國
 畫
 卷
 三

文武の盛りの
至るを盡せしや
ふべし國中の
水飲百姓不至
でも字と知ら
者りく調練の
と知らるる者
去る慶應二年
・ 塙地利と戦
利と取し其時

會國一一生も産物
を女穀菓菜芋麻葡
萄金銀銅鉄多し
と坊より少くは若者
士國人口一五八
百千人

一味の小國
ふと始め六七箇
國と滅して其地
元來一十八百
萬の人口増して
千二百萬余の
上を斯く大戦争
1日を費し
僅か五日で
あり當時西洋

民の教の行ゆに貴
賤男女の差別あり
女子は知る者
一 文備り武備起
兵士三十一萬人

世田屋明
 書林
 卷三

あせと七七日の戦
 と唱へる古と違ひ
 何事も手早くなす
 今の世の中あり



魔の舞多勢の四カ
 隣の国とて早
 南北方の小國ハ
 宇多天保留富

○瑞西の都とベ
 んといふ時計細ユ
 の名所あり此國ハ
 山國おて人皆質素
 儉約且勇氣あり故
 小國かともども外
 國の輕蔑と受けど



馬和里屋等西此
 堺の禮信河と乃
 源をるり中は山阪
 高き瑞西國の政
 事ハ共和政小治

士良
 國書
 卷三
 二十四

世界地理
國盡卷三

○和蘭の人別ハ僅
 小三百六十萬
 也諸方一飛地の
 領分多一國の人皆
 藝學と勉り殊小海
 軍ハ此國の得意か
 都とてわけとい
 市中奇麗かまど
 繁花ありは國中
 一の交易場ハわむ

水一様一文字
 明教の経を早一
 百
 工技藝云手取老一
 化の侮瓜被り禮
 陰の流北一
 女乃



○白耳義ハ和蘭よ
 をかまざる國かま

港あり
 是とらだむといふ

河尻ハ和蘭は至
 中一山見ぬ
 平地一河多々小
 患は来北一人の知
 後乃巧そ諸方手

世界地理 國盡卷三 二十五

世界地理
 國盡卷三

ども全体の土地柄
 ハ和蘭も重なり
 且國民農業も出精
 して少くも不毛の
 地か一鉄石炭も領
 分中らを出製造物
 多し小國なれども
 英吉利の風ゆを
 ○昔日暹國ハ名高
 き強國も今小至

築く土堤塘田畑の
 業一々精一花
 の産物少く諸國
 渡り少く交易人此
 衣食も饒なり西

の領分多し元治元
 子年日耳曼と戦ひ
 見苦しからぬよふ
 防禦したまひ衆
 寡敵せむ違ふ和睦
 して南の塚か
 ちん近傍の地を失
 ひ國の人別五十萬
 人と減り

の隣り以白耳義は
 と和柔の土地を
 主風塔も異なり
 表さるる以生産は
 倍中ぬ人

世界地理 卷三

世界圖畫卷之三

骨片波遊の景



○瑞典能留英ハ一
政府の支配かきど

情を國ハ富強
志を一なり
白耳義を其地
方ゆり付く先連
國都は骨片波遊

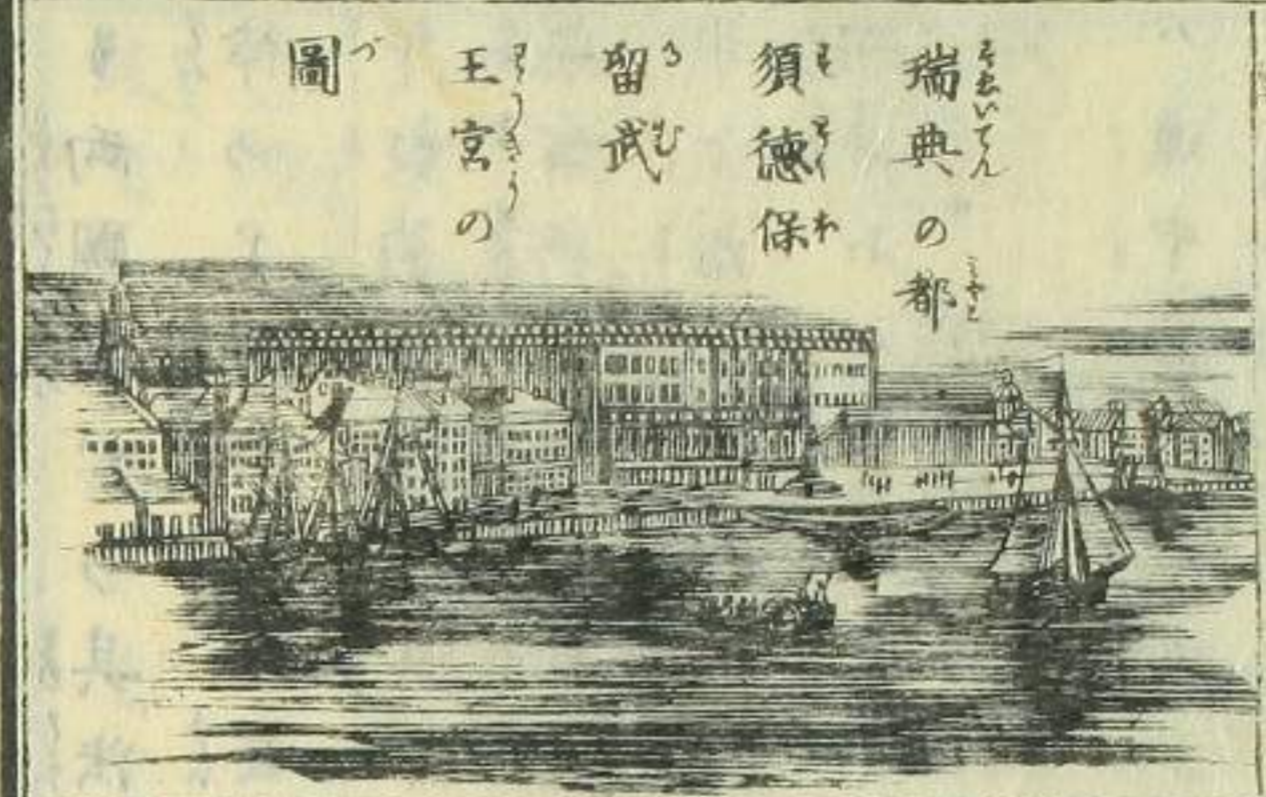
も兩國自から其法
律ゆり瑞典王ハ毎
年數箇月の間必
能留英小行て其國
事と治つと例と
瑞典ハ蒸氣車の
路少一旅行と少
ハ道中筋の百姓よ
馬と出させ三四
里の宿次おて

とて玉中一の交易場
濃大以渡北ハ瑞典
西ハ隣ハ能留英西
と東の島玉一今
一玉西の都を鑑

世界圖畫卷之三

二十七

人と乗せ荷物を送
りて國法と



瑞典の都
須德保
留武
王宮の
圖

次知屋奈東、沈徳
保留武、其、者
とぬ敏不毒以比不
の一人を今も其は乃
數四百三十九、其北地

○二百年以前、
ハ魯西亞も小國、
て且北方の田舎國、
りてハ學問も開け
りて人氣暴くして、
伐か、風俗を、
ガ千六百年代の末、
元禄年、平土留帝と
中の頃、英明の君出
り、一時、國を改革

の氣候寒くして
閑け、先地、稀
かれと、女穀菜、実
と、登、山より出、
金額、中、鉄、は

世見
國益
卷三
二十八

一英佛和蘭等の如
 き文明の國の風小
 あらひ學校と設け
 海陸軍と建て内と
 守て外と攻て歐羅
 巴諸國と並び立つ
 のときふ堂々たる
 一大國の基と開
 き今日小至るまで
 威名と世界中小畏

世界万国
 万国万国
 万国万国
 万国万国

極ありて世界万国の
 名ありて万国の
 深遠保苗武に港よ
 東を帝國魯西の
 真

かせり

平土留帝



魯西亞の都ハもセ
 もそのりといふ處
 ちりり平土留帝
 の時ハ北方の海岸

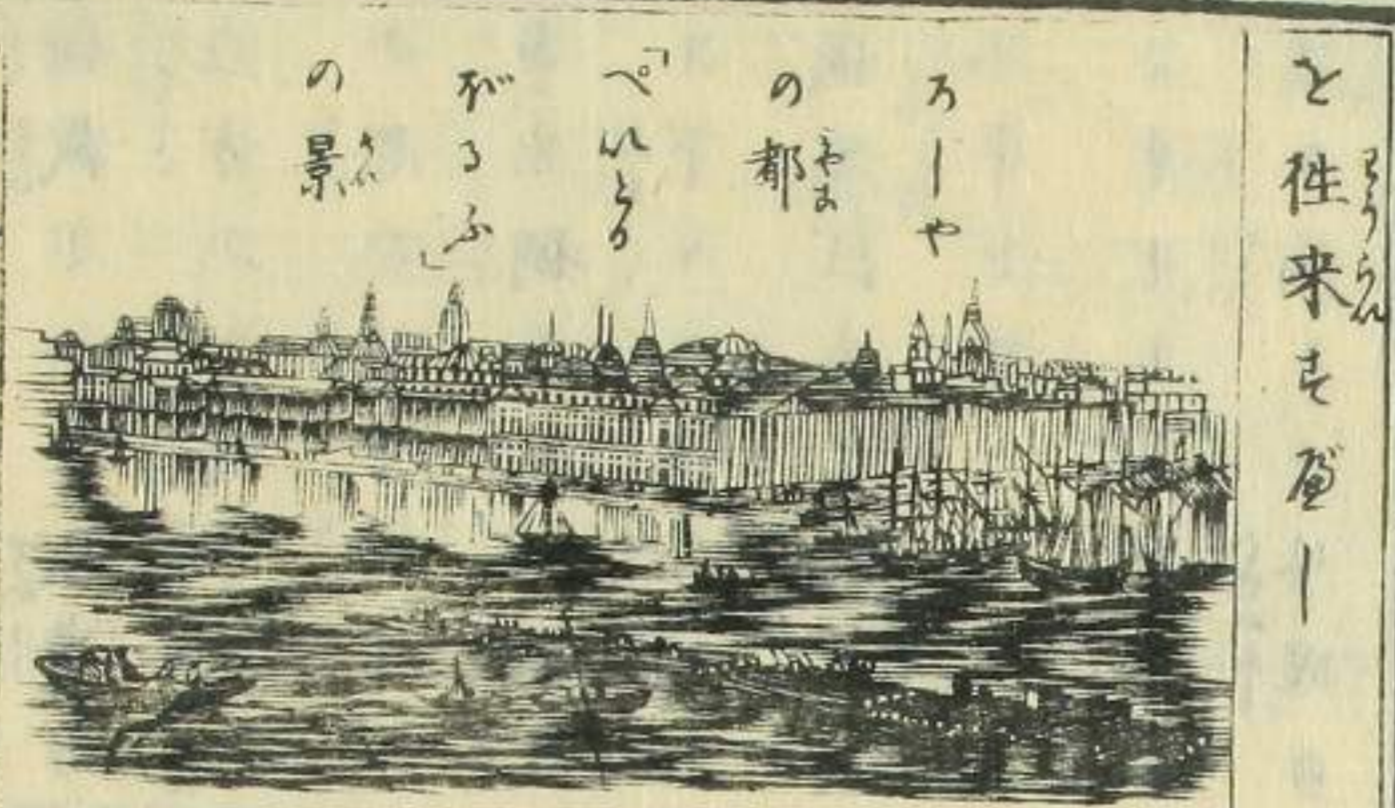
都ありて新都平土
 苗保苗府あり抑魯
 西の飲分ハ細亞
 本利加歐羅巴三大海
 踏りて東西に九百

世界万国
 万国万国
 万国万国
 万国万国
 二十九

世界圖説
卷之三

新お都と開さふ
とと平土留保留府
と名けを奈和とい
ふ河の畔おめをて
當時一歐羅巴洲中
小も数少かき大都
會と名を但一寒
氣ハ甚しき一く冬
の間ハ河お氷を
て海さざり氷の上

余り南北凡一白里世
界此土化を六
一と有る一政府生殺
と壽司の権柄を握るは
皇帝一人の手に余



魯西亜ハ他の歐羅

と往來を便し

ろーヤ
の都
べい
かふ
の景

萬れ人民の上をまた
る是れ君四海の波
と静る鎮る済世
の治り乱れ忘れぬ
總めしふ文武の教

世界圖説 卷之三

巴諸國と違ひ立君
 獨裁といふ政事の
 立方小て國帝一人
 の思ひ通も勝手小
 事と捌く風かを故
 小下々の情合上小
 通せばして國中
 不平と抱く者多し
 さもども其國柄北
 方小偏りて外國の

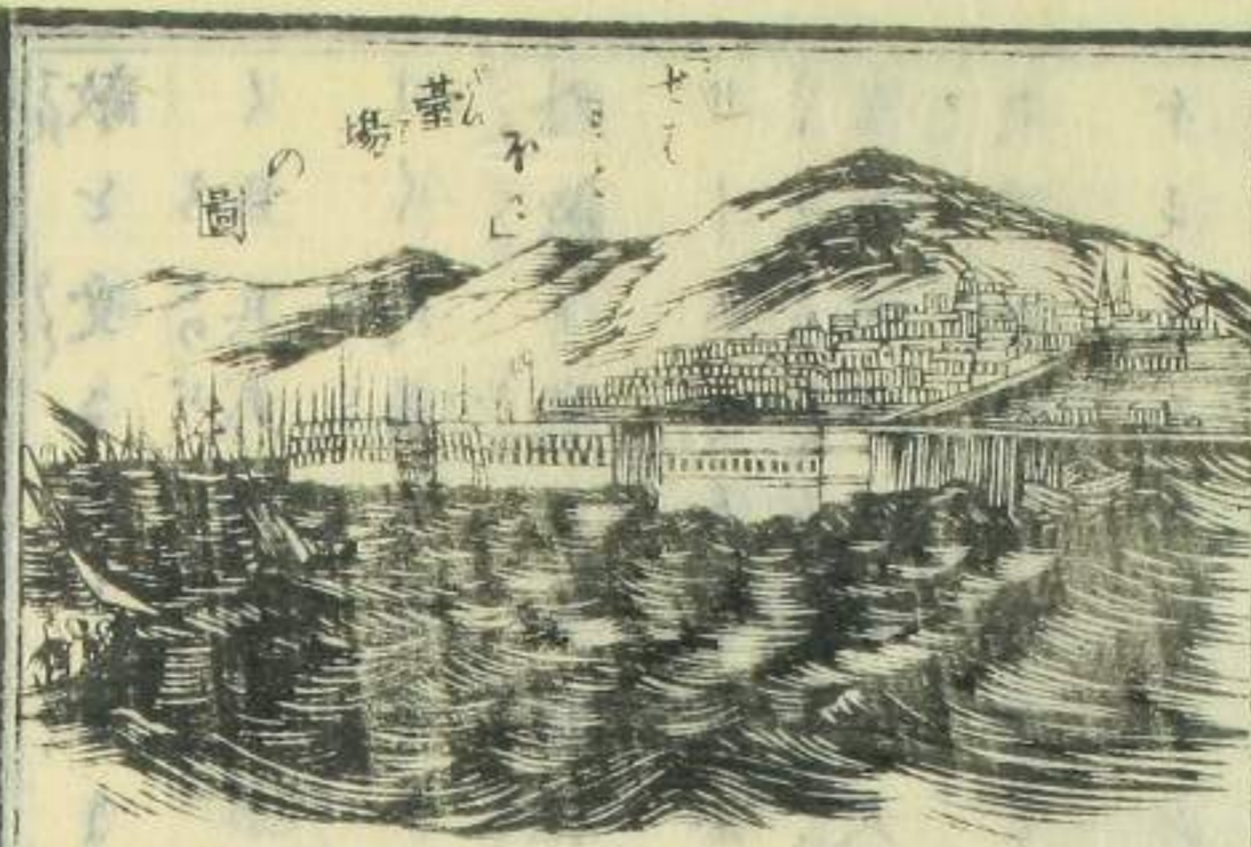
懈たし兵士の數
 其字萬國の法方
 設けたる八百九十
 校小九千五萬乃槍
 古く是等し智くは藝

敵と受らみと少
 く且其武備格別小
 しく行届きたとい
 外敵と受るも敗北
 せしむとあし既小
 安政元年英佛の大
 兵黒海に八せ
 が是と不さといふ
 處と攻めしあやめ
 もども敵味方五分

術は次第に進む國
 富は以て富産
 物は五穀獸類等
 烟草字良苗山林
 金銀銅鐵穀

の勝敗ナリトイ

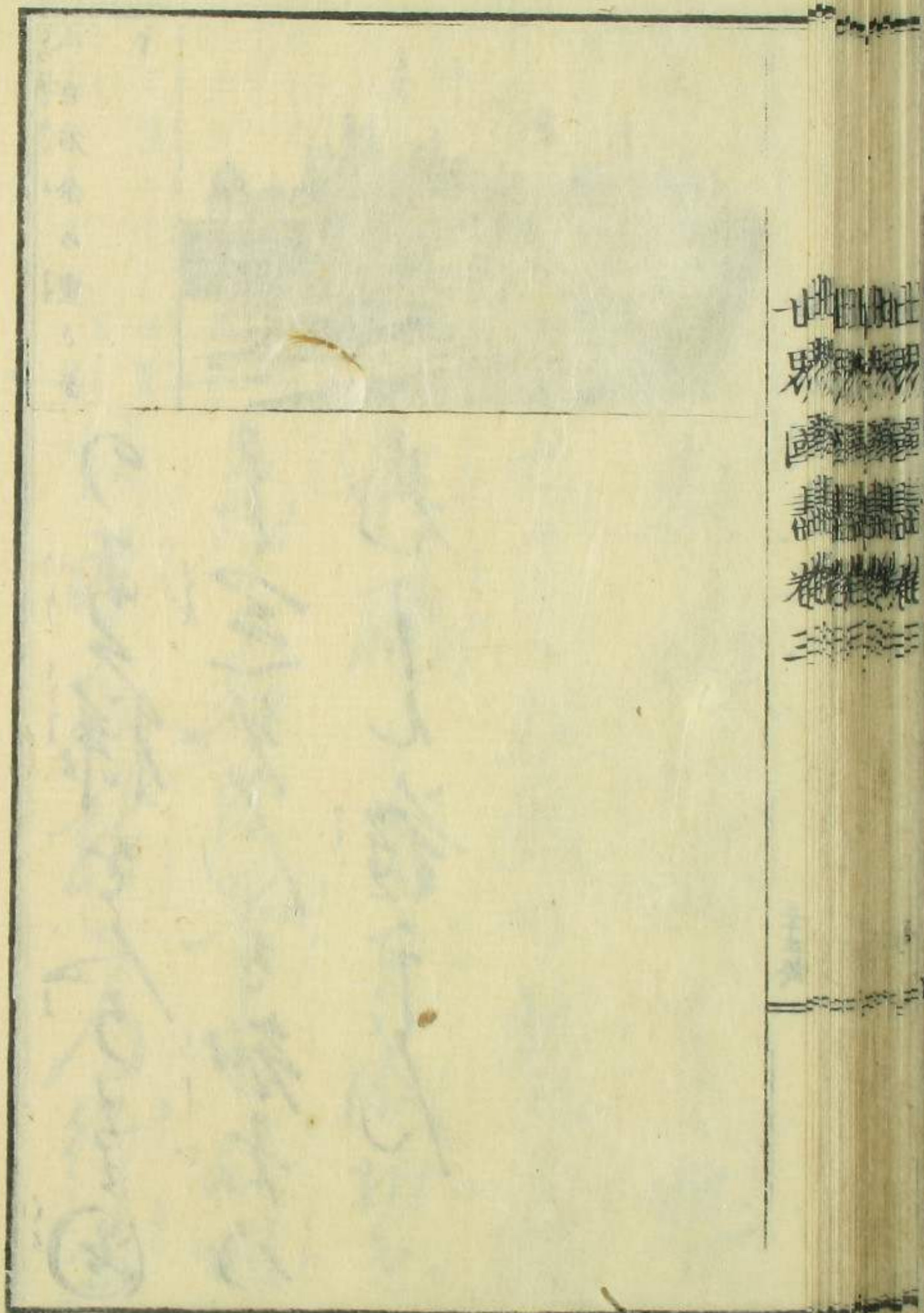
地味明
國盡
三



此交易ハ絶不昌ハ莫
亞法蘭國ヲ及スぬモ内
不動ノ農ノ業ハ乃
ハ日ノ増一ノ月ノ弘
岬ノ北北を守テ南以

の舊都ハテペハ
七十里をウケノ處
小川を蒸氣車ハ乘
一日ハテ達モ
隨分繁華あり都
會ハ千八百十二
年ハ本と左の大
兵攻入シテ魯

攻先西ノ遠ノ黒海
より表海ノ邊ノ至
キハ高ノ支那ハ
滿州ハ半ヲ魯西
要ノ并セテハ朝



洲巴羅歐

